

### 1. 事業の概要

近年、中国を始め、韓国、日本でも被害が急激に拡大している黄砂は、日本、韓国、中国及びモンゴルの共通関心事項である。現在、これら4か国及びUNEP等の国際機関によって「アジア開発銀行(ADB)-地球環境ファシリテイ(GEF)黄砂対策プロジェクト」が実施されており、モニタリングネットワークが構築・運営されるとともに、今後、実際に中国・モンゴル国境で、実際に黄砂に関する発生源対策の各種技術を施工し、その効果を把握する実証プロジェクトの実施が予定されている。

このような背景の下、以下の事業を実施する。

ライダー装置(レーザー光線により上空の黄砂の分布をリアルタイムで観測する装置)による国内での黄砂モニタリングネットワークの整備、運営

国際黄砂モニタリングネットワークの確立

ライダーネットワークで得られたデータを、日本、韓国、中国、モンゴルの4か国で検証・交換を行うスキームについて、国際ワークショップ等を開催して検討

黄砂発生源技術に係る優良事例の交換及び共有促進のための支援【新規】

黄砂発生源対策のための個別技術の選択において、生態系保全という観点が十分取り込まれるよう、優良事例を収集・整理し、技術評価を行うとともに、国境でのプロジェクトへの適用可能性について検討を行う。

### 2. 事業計画

項目	15・16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
国内ライダー装置設置						
ネットワークの確立						
技術評価・適用性検討						
優良事例交換・共有促進						

### 3. 施策の効果

国際的な連携に基づいて、発生源対策地域における効果的な対策の実証が行われるよう措置する。実証地点の当該国が実証結果を他地域にも応用することにより、黄砂に関する発生源対策に資することが期待される。

# 黄砂発生源技術に係る優良事例の交換及び共有促進のための支援【新規】

優良事例調査・検討（環境省が調査実施）

インプット

中国モンゴル国境での実証プロジェクト実施（アジア開発銀行 / 地球環境ファシリティが対策をパイロット実施）

他のプロジェクトへ波及

他地域での応用（中・モが、国内予算措置及び他の国際機関にプロジェクト要請）

中国及びモンゴル等発源地域の生態系保全に配慮した黄砂発生対策に係る技術評価・選択（技術事例）

・禁牧による植生回復

・草方格（麦わら等を格子状に砂中に差し込み、砂の移動を抑制）



中国・モンゴル国境：発生源対策技術実証プロジェクト

・計画及び実施内容については、日本、韓国、中国及びモンゴルの政府職員及び専門家による委員会が検討。日本からインプット。

中国及びモンゴルにおける発生源対策技術の普及

・優良事例調査結果が反映された実証プロジェクト検討結果及び実施結果をもとに、中国及びモンゴルが、国内措置または他の国際機関等に対策実施プロジェクトを要請。